

信州大学サポーターズクラブメルマガ第96号 2021年7月30日

信州大学サポーターズクラブ

メルマガジン 第96号

信州大学サポーターズクラブ事務局

2021年7月30日

-----毎月月末に配信しています-----

【 I N D E X 】

シンダイ百科

信大からのお知らせ

信州の景色

■■■■■■■■■■【シンダイ百科】■■■■■■■■■■

『信州大学航空部』

をご紹介します！

航空部は週末のグライダー飛行を始め、グライダー操縦のライセンス取得、大会出場を目標に練習しています。長野グライダー協会の方々と共に活動しながら、グライダーに関する知識と技術を日々磨いています。今回は工学部の小久保さんにお話を伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■■■■■■■■■■【信大からのお知らせ】■■■■■■■■■■

WEB オープンキャンパスを公開中です

信州大学では、WEB オープンキャンパスとしてご自宅のパソコンやスマートフォンからご覧いただける学部や学科、在学生へのインタビュー動画を公開中です。WEB 進学相談会の予約も受け付けております。是非ご覧ください。

○詳細はこちら

https://www.shinshu-u.ac.jp/ad_portal/webopencampus/

■■■■■■■■■■【信州の景色】■■■■■■■■■■

御射鹿池

今回は茅野市豊平にある御射鹿池(みしゃかいけ)をご紹介します。東山魁夷の『緑響く』のモチーフになったことは有名ですね。また一年を通じて美しい自然の移り変わりを楽しめる人気の観光スポットでもあります。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから
<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』
編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局
長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail 】 koyukai@shinshu-u.ac.jp
【 H P 】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>
【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2021.7.30



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第96号

Q)信州大学航空部はどんな団体ですか？

A)信州大学航空部は1983年に設立されました。関東大会3位など好成績を収めたこともありましたが、これは関東の他の大学に比べて飛行機会が多く、近くに山があるなどグライダーに最適の環境であり、部員の技量が高かったからではないかと思います。一時部員が少なくなり、2011年頃一度廃部となってしまいましたが、2016年に3人の信大生により航空部は復活しました。そして今年は新たに2年生1名、1年生5名の部員が加わり、合計21人が在籍しています。部員の多くは工学部所属ですが、経法学部などほかのキャンパス所属の学生もいます。現在の目標は、航空部内のライセンスを持っている部員(ライセンシー)を増やすことです。ライセンシーが増えることで、大会出場において部員同士が切磋琢磨できる環境にしていきたいと考えています。



【長野市滑空場にて離陸準備の様子 2021年5月撮影】

Q)主な活動内容を教えてください。

A)航空部の活動は主に3つあります。1つ目は日々のフライト、2つ目は定期的な学科の勉強、3つ目は滑空場やグライダーの整備です。

【フライトについて】

フライトは主に週末に行っており、フライトの日はグライダーの組み立てから始まり、1日空を飛んだあとは分解も行っています。新入部員は初心者が多いので、最初のうちは教官と一緒に乗り操縦訓練をしていきます。そして、個人差はありますが同乗飛行を50~80回ほど行った後、初めて一人だけで飛行します(初ソロ)。初ソロを終えた後は更にソロ飛行を積み重ね、晴れてライセンスを取得します。初心者にとって難しいのが着陸です。着陸時はどうしても感覚で操縦しなければならないところがあり、初心者の方は飛行経験が浅いので、その感覚が分からず苦労します。また着陸の際の操作ミスにより、実際に事故も起こっているため「初心者の壁」となっています。長野グライダー協会の方々とは、一緒に機体の組みばらしをするなど日々の活動で運航をうまく回せるように協力をしています。グライダーを飛ばすためには様々な業務が必要ですが、中には操縦教官や運航管理(管制)など、誰にでもできるわけではない業務もあります。ですので、学生は地上作業など学生にもできることをして、全員で協力することで運航を円滑に行っています。また、協会の方々はグライダーに長く乗ってこられた方ばかりなので、基本的な操縦のコツや長く滞空する方法を教えてくださいたりしています。航空部が活動場所に行っている長野市滑空場は、長野市若穂多

目的広場とも呼ばれ、犀川が千曲川に合流する地点の下流 1km の千曲川河川敷に位置しています。グライダー以外にも、平日には白バイの訓練をしていたり、時にはミュージックビデオの撮影にも使われたりする場所です。県内には霧ヶ峰に滑空場がありますが学生が活動していません。県外の滑空場では、関東の多くの大学航空部が活動している妻沼滑空場があります。ここは休日平日問わず頻繁に活動しているとても広大な滑空場で、過去には部員が妻沼滑空場での他大学の合宿に外部参加していました。

【学科の勉強について】

学科は基本的に上級生が 1 年生にライセンス取得のために必要な気象や工学、法律、航法などの専門知識を教えています。現在ライセンス取得しているのは、大学院生 2 名、4 年生 3 名の計 5 名です。入部してからライセンス取得までの期間には個人差がかなりあります。最も早く取得した学生で 2 年生の冬、最も遅かったのは 3 年生の冬です。日本のライセンスは基本的に日本国内でのみ有効です。しかし飛行経歴は大体の国で書き換えが可能なため、練習の許可があればフライト練習は可能です。また、ほかの大学でオーストラリア合宿をしているところもあります。

【整備について】

7 月は長野グライダー協会と一緒に航空部も整備期間に充てています。重要な整備は協会の整備士の方がしてくれます。航空部には整備士はいないため、部では基本的に滑空場の雑草を刈ったり滑走路のマーキングを塗りなおしたりといった整備をしています。



【滑空条件が良い日に長野駅上空を飛行中の様子 2020 年 10 月撮影】

Q)今後、力を入れていきたい活動を教えてください。

A)部員にライセンス保持者が毎年出るようになり、関東大会をはじめ全国的な大会への参加も可能になりました。そこで今後は積極的に大会へ参加して、知名度を上げていきたいと考えています。グライダーの大会は 3 つあります。1 つ目は全日本学生グライダー新人競技会です。東海地方の滑空場で開催され、航空部からも出場しています。2 つ目は久住山岳滑翔大会で、この大会は大分の滑空場で開催されます。3 つ目は、関東大会と全国大会です。航空部が出場するとしたら、夏の期間に開催される新人競技会と久住大会、次に春開催の関東大会となります。日本学生航空連盟には全部で 59 校が加盟しており、このうち関東は 24 校です。関東大会は既定の周回コースを回る速度を競う大会です。それに対して、久住山岳滑翔大会は滞空時間、獲得高度を競います。ちなみのこの大会では全出場選手 46 人中、信州大学航空部の学生が 2 人出場し一人が優勝、もう一人の部員も 3 位を獲得しました。部活で技術指導して下さる教官には、信州大学 OB の教官の方や関東から関西までの大学の航空部の教官がいらっしゃいます。普段の土日の活動では、こちらから依頼をすることはないのですが、信州大学主催の合宿をするときは、各大学の教官の方

に指導の方を依頼する場合がほとんどです。また、現在は長野市滑空場でしか活動していませんが、今後は他大学の学生が活動している他の滑空場への参加などをしていき、部員のさらなる技量の向上を目指していきたいと考えています。



【長野市滑空場にてウィンチで曳航離陸する様子 2021年5月撮影】

Q)その他メッセージやコメントがあればお願いします。

A)グライダースポーツは非常にマイナーで、航空部の存在を知らない学生も多いです。しかし、グライダースポーツの魅力は、素晴らしい景色を見られるだけでなく、長く高く飛ぶために様々な知識を習得できることです。グライダーのライセンスを取るにあたって、気象や工学、法律などの知識を知ることができて普段の生活でもその知識を活かすことができることも魅力です。我々が活動している長野市滑空場は、全国的にみてもグライダーの飛行に条件がいい場所にあり、飛んでいるときに見える景色も市街地から北アルプスまで大変壮大で美しいです。この長野県にいるからには、ぜひグライダーの世界を知ってほしいと考えています。

いつも見ている景色も、グライダーに乗って空から見てみたらいつもより新鮮で、美しく見えることでしょう。自分が操縦できるところが更に素晴らしいですね。これからも技術向上に努めつつ、グライダーの魅力を伝え続けてほしいなと思いました。今回はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【信州の風景】第96号

御射鹿池は自然にできた池ではなく、農業用水用のため池として1933(昭和8)年に作られました。池のある場所は、長野県茅野市奥蓼科の標高1,540mと高地に位置するため、周辺の住民は昔から冷害に苦しめられていました。そこで池を作り水をため、日光で温めて稲作などに利用してきました。池の水は現在も麓で農業用水として大切に利用されています。



池の水が凪いでいるときは、森やカラマツ林が水面に水鏡で写って、美しい姿を両方で楽しめます。

雨の日は霧がかかることが多く、撮影した日も雨が上がった後しばらくしたら霧に包まれてしまいました。白い霧に包まれた池は一層神秘的な雰囲気を訪れた人に与えます。



四季を通じて美しい景色を堪能できる御射鹿池を1度訪れてみてください。